第37回　企画展

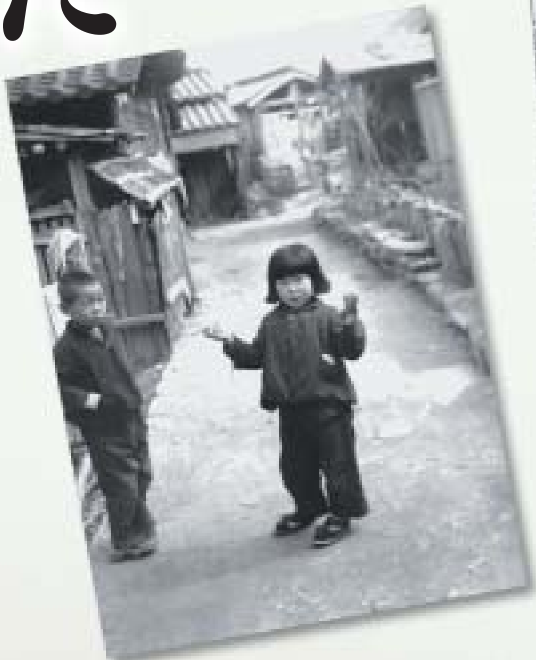
撮影された徳島の風俗

―津田幸好の見た戦後の徳島―

独楽で遊ぶ子ども

雪の新町橋

中洲港の市場


あやとり

プラットホームでの踊り

入場無料

[展示期間] 平成21年8月4日(火)～10月25日(日)
[開館時間] 午前9時30分～午後5時
[と こ ろ] 徳島県立文書館 2階 展示室

●展示解説　平成21年8月23日(日)・9月27日(日)　午後1時30分～午後3時
徳島県立文書館 2階　講座室・展示室

文化の森総合公園 徳島県立文書館
Tokushima Prefectural Archives
〒770-8070　徳島市八万町向寺山　Tel.088-668-3700／Fax.088-668-7199
●休 館 日／毎週月曜日・毎月第3木曜日（月曜日が祝祭日の時はその翌日）
●開館時間／午前9:30～午後5:00　http://www.archiv.tokushima-ec.ed.jp

ごあいさつ

徳島県立文書館は古文書や公文書だけでなく、一万点以上の写真や映像資料を所蔵しています。収集した写真を整理し、デジタル化したものはいつでもご利用いただけます。写真による企画展も年一回実施することとし、昔の徳島の町並みや風景、人物や自然災害などを紹介してまいりました。

今回は、徳島市の津田幸好氏より、昨年当館に寄贈いただきました膨大な写真資料のなかから、昭和三十年頃に撮影された徳島の風俗を紹介する展示といたします。戦災から復興し、高度経済成長に向かうころの徳島市周辺や県南の人々の生活や町並みがいきいきと映し出されています。また、写真に添えられた津田氏の軽妙洒脱な文章は時代背景を語るだけではなく、これからの徳島を展望する手だてとなります。

一枚の写真には思いのほか多くの情報が撮し込まれており、これらを読み解くと歴史を物語る貴重な資料となります。しかし、アルバムや写真が安易に捨てられやすいことや、経年劣化が激しいカラー写真、データの損壊が起こりやすいデジタル写真への移行など、歴史資料としての写真の保存は非常に困難な状況にあります。当館では県内の古い写真の収集・保存に努めたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

この展示の開催にあたり、津田幸好氏、徳島新聞助任専売所、徳島市立徳島城博物館をはじめ数多くの方々のご協力をいただきました。末尾ながらお礼申し上げます。

平成二十一年八月四日

徳島県立文書館長　計盛　眞一朗

津田幸好氏の写真に寄せて

津田幸好氏は大正十四（一九二五）年徳島市生まれで、理容業のかたわら阿波踊りや徳島の風俗、昆虫の写真を撮影したことで知られるアマチュア写真家です。日本リアリズム写真集団徳島支部、徳島二科会、ライカクラブなどの写真集団に所属するとともに、阿波踊り連「娯茶平」顧問でもあり、徳島ペンクラブ会員としても活躍されています。

今回の写真の多くは、昭和三十（一九五五）年の元日から暮れにかけて徳島市内や県南において撮影されたものです。家業の理容業に専念するため「今後一切コンテストには出品しない。その代わり自分が好きなように撮ってやる。」と決意し、ひたすら撮影したものだそうです。このころは徳島駅舎の改築も終わり、四国で最初の民間ラジオ放送がはじまるなど戦災からの復興がすすみ、『経済白書』が「もはや『戦後』ではない。我々はいまや異なった事態に当面しようとしている。」と書いた時代です。まさに時代の大きな転換期にあって街の風景や庶民の生活実態にカメラを向けた貴重な記録といえます。的確にモチーフを捉えた写真からは人々の話し声や歓声、生活のにおいまで感じ取ることが出来ます。また、鮮明に撮された写真から背景に撮し込まれた時代のさまざまな情報も読み取ることが出来ます。

また、これらは、著書『阿波踊り 撮った踊った四〇年』（一九八七年　第一出版）への掲載、一九九一年から徳島新聞助任専売所が編集した広報誌『ほほえみ』の巻頭にエッセイとともに一三〇回の連載、二〇〇三年から徳島市立徳島城博物館で「ふりむいたら昭和」展として四回、自ら解題を付けて展示されています。撮影者自らがそれぞれの写真の解題をしているという点でも非常に貴重な歴史資料といえます。

一枚の古い写真から記憶が呼び出され、自分の過去の体験が次々と呼び出されてきますし、誰かとともに見ることによって同じ時代を生きた意識を共有することができます。いわゆる高度経済成長によって失われた徳島の風俗を見直すことによって、今の時代状況を振り返るとともに、これからの生き方を考える機会となれば幸いです。

街の風景―『ほほえみ』から

昭和30年　吉野本町での雨の日の荷馬車

徳島新聞　渭北ニュース「ほほえみ」 6月号

NO37

●わが町今昔（13）　平成4年6月25日発行

荷 馬 車

子供のときは馬方の目を盗み、往来する荷馬車の荷台にすがりつき、よく叱られたものである。馬車馬は歩きながらでも、しっぽを上にあげると所かまわずに馬糞をたれながし、商家の店先ではその置物は厄介な代物であった。

いつかトラックが荷役の座を奪い、町から蹄の音は消えてしまったが、馬糞にかわり大型車から吐き出される排気ガスと、家のなかで見るテレビの音声も掻き消されるほどの騒音に悩まされているこのごろである。

徳島新聞　渭北ニュース「ほほえみ」 8月号

NO75

●世俗うつろい（12）　平成7年8月25日発行

戦後五十年

「今日も暮れゆく　異国の丘に　友よ辛かろ切なかろ…」

切々と歌う望郷の歌「異国の丘」が巷に流れ、そして昭和二十八年中国からの引き揚げが開始され、興安丸や高砂丸が舞鶴港に着いた。やがて流行り歌も「岸壁の母」に変わり、昭和三十一年ソ連から一千二十五人の復員兵を最後に戦後の引き揚げは終わった。この頃より「もはや戦後ではない」と経済白書にも明言され高度成長へのステップを踏み出すが、戦争の傷跡は深く、新町橋にも駅前広場にも傷痍軍人の喜捨を求める立ち姿が見られた。

米軍マッカーサーのGHQは日本政府の上に君臨し、1ドル·360円とする単一為替レートを実施する。そして今、1ドルなんと80円台に突入している。ノミやシラミに悩まされアメリカ生まれの殺虫剤、DDTをふとんに振り撒かなければ寝られなかった五十年前がうそのようである。

昭和30年　新町橋

新町橋通りで雪に興じる子供たち

徳島新聞　渭北ニュース「ほほえみ」 1月号

NO80

●世俗うつろい（17）　平成8年1月25日発行

街の雪

雪だるまの目玉はタドン、口は木炭、そしてブリキで作ったバケツを帽子がわりに、ちょこんと頭に乗っけたスタイル。当時の燃料や台所用品をうまい具合に使い出来上がっていた。今年は厳しい寒波がおしよせ、小雪がちらつく日もある寒い冬をむかえてはいるが、まだ、雪だるまが出来るほどの降雪はない。昔はよく雪が降った。子供たちは真っ白い銀世界のなかで、手を真っ赤にして雪合戦に興じ雪だるまをつくったりしたものである。一面の銀世界は子供たちに楽しい思い出をのこし、俳句や写真のモチーフにと持てはやされるが、車社会の今はスリップ事故の多発で海も空もすべての交通機関が麻痺し、学校は休校になり、農·漁業にまで、さまざまな弊害をもたらすものだから、「雪やコンコンあられやコンコン」と歌った雪は今、雪害となって敬遠せられている時代である。

※津田氏によるエッセイは掲載されたままで横書きとしました。

阿波踊り

町内のにわか連

踊りの日

木偶と踊る

プラットホームでの踊り（徳島駅）

一丁回り（三味線流し）

新町橋付近

旧市役所前（徳島市役所）

楽しみ

花の宴（眉山）

ラジオ体操（徳島天神社前）

ロバのパン（徳島駅前広場）

東新町の正月風景

人形浄瑠璃大会（内町小学校）

天神祭の競艇模擬レース（新町川）

競　馬（市営競馬場）

神社復興の餅投げ（助任八幡神社）

子どものいる風景

金網を張った教室の窓（助任小学校）

学校給食（富田小学校）

子守りをする少女

店先で遊ぶ子どもたち

相撲大会（藍住町か）

スクーターと子どもたち

にわか雨

宮参り（助任八幡神社）

街の風景

中洲港の市場

雪の新町橋

選挙速報版（東新町）

富田町界隈

嫁入り道具を積んだトラック

雨降れば………（助任春日神社横）

リヤカーの製作所（吉野本町）

行　商（魚屋）

展示資料一覧

ファイル番号（仮）		表　　題	場　　所	撮影年代	備考
街の風景					
ツダ	18	行商（魚屋）			*3
ツダ	134	荷馬車	吉野本町	S30	*2
ツダ	18	戦後五十年	新町橋から元町	S30	*3
ツダ	15	街の雪	新町橋通り		*3
ツダ	15	花見酒	眉山・天神社		*2
ツダ	7	雪のワシントン椰子	徳島駅前		*2
ツダ	134	中洲港の市場	中洲浜	S30	*2
ツダ	8	雪の新町橋	新町橋		
ツダ	7	選挙速報版	東新町	S30	*3
ツダ	134	富田町界隈	富田町		*1
ツダ	7	住吉の市営住宅	住吉	S32	*2
ツダ	15	嫁入り道具を積んだトラック			
ツダ	134	雨降れば………	助任春日神社横	S32	*3
ツダ	31	貸本屋の子ども			
ツダ	7	リヤカーの製作所	吉野本町	S29	*3
阿波踊り・楽しみ					
ツダ	14	町内のにわか連			*1
ツダ	20	踊りの日			*1
ツダ	20	プラットホームでの踊り	徳島駅	S27	*1
ツダ	20	一丁回り（三味線流し）			*1
ツダ	20	新町橋付近	新町橋	S30ごろ	*1
ツダ	20	旧市役所前	徳島市役所	S26ごろ	*1
ツダ	14	木偶と踊る			
ツダ	14	たばこの看板の前で			
ツダ	18	花の宴	眉山	S30	*3
ツダ	15	ラジオ体操	徳島天神社前	S28	*2
ツダ	14	ロバのパン	徳島駅前広場		*5
ツダ	30	松の内	富田町	S30	*3
ツダ	7	東新町の正月風景	東新町	S28	*2
ツダ	3	人形浄瑠璃大会	内町小学校		
ツダ	34	勇屋台	助任八幡神社	S20年代	*2
ツダ	134	天神祭の競艇模擬レース	新町川	S30	*3
ツダ	15	競馬	市営競馬場	S30	*2
ツダ	15	神社復興の餅投げ	助任八幡神社	S30	*3
子どものいる風景					
ツダ	1	金網を張った教室の窓	助任小学校	S28	*2
ツダ	19	学校給食	富田小学校		*5
ツダ	134	長屋の子どもたち			
ツダ	14	たらいで遊ぶ少女	津田町		*5
ツダ	33	子守りをする少女			
ツダ	5	子守りをする少年	由岐町か		*5
ツダ	6	出前持ちの少年	東新町	S30	*3
ツダ	5	ゑびす祭りの母子	通町	S30ごろ	
ツダ	14	あやとり	由岐町周辺		*5
ツダ	18	店先で遊ぶ子どもたち			
ツダ	7	川で遊ぶ少年			*3
ツダ	14	独楽で遊ぶ子ども			*3
ツダ	19	あき缶で遊ぶ子どもたち	徳島市か		*5
ツダ	15	町の川で遊ぶ子どもたち			
ツダ	19	スクーターと子どもたち			
ツダ	134	にわか雨			
ツダ	18	相撲大会	藍住町住吉か		*2
ツダ	5	下駄			*4
ツダ	5	夜店			
ツダ	15	宮参り	助任八幡神社		

*1　津田幸好著『阿波踊り 撮った踊った40年』（1987年　第一出版）
*2　徳島新聞助任専売所広報誌『ほほえみ わが町今昔』（1991年～1994年）
*3　徳島新聞助任専売所『ほほえみ 世俗うつろい』（1994年～1999年）
*4　徳島新聞助任専売所『ほほえみ ふりむけば昭和』（2004年～2007年）
*5　徳島市立徳島城博物館『ふりむけば昭和展図録』（2005年）

ホシ・ホウジャク
『展望』1989年版（徳島県同和対策推進会）表紙に使用

第三十七回 企画展
撮影された徳島の風俗
―津田幸好の見た戦後の徳島―
平成二十一年八月四日 発行

編集・発行 徳島県立文書館
〒七七〇―八〇七〇 徳島市八万町向寺山
電話 〇八八（六六八）三七〇〇

印刷 ナカガワ・アド㈱
〒七七九―三六〇二 徳島県美馬市脇町大字猪尻字若宮南三一―一
電話 〇八八三（五二）一六四三